

小・中・高等学校の読書活動における ICT 活用の可能性

「子供の読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰」の取り組みから

A Study of the Use of ICT in Reading Activities at Elementary, Junior, and Senior High Schools in Japan

庭井 史絵
Fumie NIWAI

1. 子どもの読書活動とICT

1.1. GIGAスクールにおける読書活動

文部科学省が推進しているGIGAスクール構想のもと、小・中学校で「1人1台端末」と「高速通信ネットワーク」の整備がすすみ、学校教育でICT（情報通信技術）を活用するための環境が急速に整いつつある。小・中・高等学校で行われている読書教育においても、情報環境の変化が児童・生徒の読書にどのような影響を与えるのか、また、読書活動にICTをどのように活用できるかという議論がある。例えば、文部科学省が2022年6月から開催している「令和4年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議」の設置要綱を見ると、次期「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定に向けて、「情報通信技術の普及による中高生のスマートフォンの保有率の急増やGIGAスクール構想による1人1台端末環境の整備」など、子どもの読書に影響を与える環境変化を踏まえた検討が必要と指摘されている¹⁾。

同会議の具体的な検討事項は、(1) 発達段階に応じた読書習慣の形成、(2) 高校生が読書をするようになるきっかけづくり、(3) 読書とICTのベストミックス、(4) その他子供の読書活動推進のために検討することが必要な事項、の四点である。特に(3)の読書とICTとの関係については、「スマートフォン、電子書籍の普及やSNSなどのコミュニケーションが多様化する中で、読書とICTとのベストミックスを探る必要がある」として、「ICTの活用を読書活動にどう結び付けていくのか」「紙と電子書籍それぞれの強みを活かした読書活動をどのように考えるべきか」の2つが論点(案)として示されている。

会議の委員からも、読書活動におけるICTの積極的な活用に目を向けるべきだとして、以下のような意見が述べられている（下線は筆者による）²⁾。

「(略) 紙か電子かのそれぞれのよさを生かした読書の在り方ももちろん大事なのですが、先

ほど申し上げた通り、子供たちは、常にデバイスを持ってたくさんのテキストに触れているので、単に紙か電子かではない、ICTを使った新しい読書の在り方というのも模索していきたいと思っています。例えば、読書の中で感想を外に伝えていくときにICTを活用したり、自分で電子書籍をつくることに関わったりするとか、アウトプットも含めたICTを使った読書の在り方も考えていきたいと思っています。」(有山裕美子, 軽井沢風越学園教諭)

「私は学校図書館だけには限界がある、学校には限界があると思いますので、公共図書館、あるいは大学の附属図書館を活用して、連携し合って、対面、あるいはオンラインで、本と出会ったり本について知ったりするようなコミュニティ、そういうものを対面とオンラインで試行的につくっていく必要があると考えております。」(稲井達也, 大正大学人間学部教授)

「今後はGIGAスクール構想による1人1台のタブレットを活用することで、デジタル媒体も併用しながら文字情報を収集し、友達との情報共有や発信を通して読書活動の進化を目指していきたいと考えております。」(富永香羊子, 千葉県市川市教育委員会学校教育部指導課課長)

「もう既に子供たち自身が本の紹介をする、ブックトークをするという活動を子供たち自身が端末で録画をして共有し合う、図書委員会の発信も端末で行っていくということが行われています。(略)ですから、ICTと学校図書館のベストミックスという点からも、読書活動のことを考えていきたいと思っています。」(福田孝子, 三郷市読書活動アドバイザー)

「デジタルというものがイコール電子書籍というだけではなく、(略) 多様な形でオンラインを通して人と人がつながったり、本を紹介し合ったり、対話をし合ったり、そうしたことに活用されたりが必要と思います。」(秋田喜代美, 学習院大学文学部教授)

すなわち、読書とICTとの関係については、デジタルツールの普及が紙の本の読書にどのような影響を与えるかという観点だけではなく、読書活動にICTを活用する方策、あるいは、子どもの読書につながる効果的な使い方を考えていく必要がある。

1.2. 学校図書館、公共図書館による電子書籍サービス

子どもの読書におけるICT活用のひとつに、電子書籍の利用がある。文部科学省が2021年に公表した「令和2年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」は、電子書籍や電子メディアを活用した読書活動の推進がテーマになっている³⁾。本調査は2020年11月10日から27日にかけて実施されているが、電子書籍サービスを利用している公立学校は全体の2.0%、具体的な導入計画がある学校は1.3%、導入を検討している学校は8.8%であった。また、公立図書館で電子書籍サービスを導入している自治体(域内の図書館すべて、あるいは一部)は9.8%、検討中と答えた自治体

のうち、具体的な計画を有する自治体が4.7%、検討中の自治体が22.4%であった。

この数値は、コロナ禍による休校・休館によって非来館型の図書館サービスを導入する必要性が生じたことから、現在、大きく変化している。例えば、一般社団法人電子出版制作・流通協議会が公表した「公共図書館電子図書館サービス（電子書籍サービス）実施図書館」によると、2020年10月1日時点で電子書籍が利用できる自治体は114であるが、2022年7月1日現在には324に増加している⁴⁾。

同様の変化は学校図書館においても見る事ができる。学校図書館における電子書籍の利用環境について研究している植村（他）は、2015年7月に行った調査の結果、電子書籍サービスを導入している学校図書館はほとんどないが、半数以上がいずれは導入したいと答えたと述べている。その後、2020年に始まったコロナ禍への対応や、GIGAスクール構想の前倒しによる情報環境の改善によって、電子書籍への関心はさらに高まっている。例えば、日本図書館協会が発行する『図書館雑誌』は、2020年12月号で「電子メディアと学校図書館：コロナ禍は、学校図書館の「電子書籍元年」をもたらすか」⁵⁾という特集を、また、全国学校図書館協議会（全国SLA）の『学校図書館』誌は、2022年8月号で「電子図書館の導入を考える」⁶⁾という特集をそれぞれ組み、学校図書館における電子書籍サービスの導入事例を掲載している。

このような状況を踏まえ、2022年8月、文部科学省の総合教育政策局と初等中等教育局は、各都道府県・指定都市図書館・学校図書館担当課長らに宛てて「1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び 公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」という事務連絡を発出し、児童・生徒の学習活動で学校図書館を積極的に活用すること、ならびに、公共図書館の電子図書館サービスの利用促進を要請した⁷⁾。

学校教育における電子書籍の活用については、前述した『図書館雑誌』『学校図書館』誌の特集の他にも、文部科学省「電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活動推進に関する実態調査」や⁸⁾、前述した同省発出の事務連絡の中にも事例が挙がっており、子どもたちが学校図書館や公共図書館の電子書籍を「読む」取り組みが少しずつ広がってきていることが分かる。

1.3. 読書活動のツールとしてのICT

前節で取り上げた「令和2年度子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」には、「電子書籍の活用を子供の読書活動推進につなげている自治体の取組」を尋ねる項目がある。公立図書館で電子書籍の貸出を行っている自治体が、子どもを対象にどのような取り組みをしているのかを調べ、「電子書籍の活用は児童・生徒の読書活動推進につながったと思う」自治体と「思わない」自治体とで回答を比較している。その結果、図書館に電子図書館サービスを導入するだけでなく、さまざまな読書推進活動を併せて行うことで、電子書籍が子どもの読書につながっていることが明らかになった。例えば、「学習や調べものの支援」「読み聞かせ等のイベント開催」「特別な配慮を必要とする子供たち向けの電子書籍の導入」「電子書籍の利用体験コーナーの設置」「保育園や幼稚園・学校等の教育機関と連携した取組」などである。

学校や学校図書館においても、従来、蔵書を充実させて環境を整えるだけではなく、読書への関心を高めたり、読む時間を確保したりすることを目的として、さまざまな読書活動が行われている。例えば、学習指導要領の解説には、読書に親しむための活動として、読み聞かせやストーリーテリングを聞くこと（小学校国語⁹⁾）、全校一斉の読書活動（小学校国語、中学校国語¹⁰⁾）などが例示されている。また、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」でも、読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの取り組み、友人同士で本を薦め合うような取り組みが重要であるとして、読書会、ペア読書、ストーリーテリング、ブックトーク、アニメーション、書評合戦（ビブリオバトル）、図書委員会活動、「子ども司書」、「読書コンシェルジュ」などが挙げられている¹¹⁾。

このことから、子どもの読書活動におけるICT活用については、読む対象を印刷媒体（本）から電子媒体（電子書籍）へと拡張することに加え、読書への関心を高めるための活動においても、その機能を生かすことが考えられる。

文部科学省が示した「令和4年度文部科学省予算」には、学校図書館や子どもの読書活動の推進に関する項目として「読書活動総合推進事業」（総額約5,200万円）が計上されており、「図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推進」（9千569万円）として「新しい生活様式」を踏まえたビブリオバトルや読み聞かせ会など、読書活動の先導的な取り組みを行うとある¹²⁾。「新しい生活様式」とは、「3つの密（密閉・密集・密接）」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続することを指し¹³⁾、人と人との距離を確保するために、デジタルツールやオンラインを活用することが含まれる。2020年3月に感染対策として実施された一斉休校以降、子どもの読書活動を継続するために、学校や学校図書館はさまざまな工夫を重ねてきた。特に、休館や制限付きの開館を余儀なくされた学校図書館では、オンラインでの読み聞かせ、本の紹介動画の作成など、ICTを活用した取り組みが試みられている（表1）。

（表1）2020年度一斉休校中の学校図書館における読書推進活動の例

学校図書館活動	活動の内容や方法 ※G=Google
本の紹介	お薦めの本紹介、新着図書紹介、無料電子書籍紹介 図書館便りの発行（印刷／PDF）、SNS発信、Web OPAC掲載、 学校HPに掲載、図書館HPに掲載、仮想本棚作成、ブックトーク 配信、トークライブ配信、教員室に展示
リンク集作成	無料電子書籍紹介
レファレンスサービス	登校日（出勤日）に対応、オンラインで対応（G-フォーム、G- クラスルーム）、教員／生徒／保護者の質問に回答
読書活動	朝の読書、オンラインビブリオバトル、読み聞かせ配信
教材提供	読書記録のプリント提供

【出典】庭井史絵「新型コロナウイルス感染症に対応する学校での学校図書館活動」（表1）¹⁴⁾ より一部抜粋

このような取り組みは、一時的な感染対策にとどまらず、ICTを活用した新しい読書活動として継続されている。全国SLAは『学校図書館』誌の2022年6月号で「学校図書館のDXを考える－1人1台端末を生かせる図書館へ」という特集を組み、GIGAスクール構想に対応した新しい学習活動や読書活動を紹介している。例えば、私立の中高等学校図書館の司書教諭である宗は、授業のテーマに関連する図書のリストをホームページに掲載し、読んでみようかという気持ちを持つ機会となるように工夫したり、生徒が気軽に答えられるよう、Googleフォームを使ったおすすめ本のアンケートを実施したり、「本の福袋」に表示したQRコードを使って生徒の反応を把握したりしている¹⁵⁾。また、別の私立中高等学校図書館の司書教諭である関口は、離れた自治体にある別の私立中学校とオンラインミニブリオバトルを共催したり、生徒が小説を書いて電子書籍化し、校内で共有したりしている¹⁶⁾。

そこで次章では、読書活動のツールとしてICTを活用する試みが全国の学校に広がっているのか、また、どのような場面で使われているのかを検討するため、より幅広く小・中・高等学校の読書活動の内容を見ていくこととする。

2. 「子供の読書活動優秀実践校」に見られる取り組みの分析

2.1. 小・中・高等学校における読書活動

文部科学省は、2002年より、子どもの読書活動に対する国民の関心や理解を高めるため、また、子どもが積極的に取り組める読書活動を推進するため、学校、図書館、団体と個人による実践を表彰している。表彰校は、各都道府県教育委員会が推薦し、外部有識者による審査を経て選ばれており、2022年3月31日には「令和4年度子供の読書活動優秀実践校」として、128の学校、46の図書館、42の団体など、合計220の団体と個人が対象として公表されている¹⁷⁾。

そこで、小・中・高等学校における読書活動の傾向をつかみ、ICTの活用状況を知る手がかりとして、当該事業で表彰された小学校、中学校、高等学校と特別支援学校の取り組みを整理した。分析の対象は、2020年度末に小・中学校の96.5%で「1人1台端末」の配布が実現したことを踏まえ¹⁸⁾、2021年（令和3年）3月と2022年（令和4年）3月に表彰された実践とした。具体的には、以下の学校である。

2021年3月表彰¹⁹⁾

小学校70校、中学校27校、高等学校24校、特別支援学校9校、中等教育学校等2校
合計132校

2022年3月表彰²⁰⁾

小学校66校、中学校27校、高等学校25校、特別支援学校6校、中等教育学校等4校
合計128校

各学校の取り組みは、文部科学省による「子ども読書の情報館」(<https://www.kodomodokusyo.go.jp/>)のなかで「全国を取組事例 事例発表」としてデータベース化され、種別(学校、図書館、団体・個人)、年度、都道府県を選択して検索することができる。そこで、「学校」を対象として2021年と2022年の実践を抽出し、各校の報告書から、子どもの読書活動、並びに、教員や学校図書館員(司書教諭、学校司書、その他学校図書館支援員やボランティア等)による読書推進活動が分かる記述を抜書きし一覧にした。260校の実践から得られたデータは2,008件であった。

これらのデータを整理するにあたっては、野口が、読書指導の実践報告記事を分析する際に作成した分類を利用した²¹⁾。野口は、全国学校図書館協議会による『今日の学校図書館：全国学校図書館研究大会収録』の記事を用いて、1950年(第1回大会)から2006年(第35回大会)の参加者による実践報告や議論を分析し、小・中・高等学校における読書指導の取り組みを明らかにした。同誌に掲載された実践は、以下の項目に分類され、年表として整理されている。

- (a) 図書の紹介(口頭、ブックリスト、図書館だより、学級新聞、掲示、展示)
- (b) 必読図書(課題図書、推薦図書含む)
- (c) 読書会
- (d) 一斉読書活動
- (e) 読書感想文、読書ノート
- (f) 一口感想、感想画、読書ゆうびん
- (g) 読書新聞、本の帯、手づくり絵本作成
- (h) 多読者の表彰(星取表、グラフの活用)
- (i) 読み聞かせ
- (j) ブックトーク
- (k) ストーリーテリング
- (l) 親子読書(家庭との連携)
- (m) 読書に関する催し(読書まつりなど)
- (n) 読書興味を引き出す方法の活用(ペープサート、紙芝居、クイズなど)
- (o) 読書のアニメーション

本稿では、「子供の読書活動優秀実践校」の報告書から、読書活動や読書推進活動を表す記述を抽出し、野口が整理した項目に沿って分類した。該当する活動がない場合は、新たに活動名を付与した上で、既存の項目に当てはめたり、「その他」に分類したりした(ビブリオバトル、本の福袋、おはなし給食など)。また、本稿の目的であるICT活用に関する記述を別にまとめた。

2.2. 小・中・高等学校の読書活動の内容とICT活用状況

2021年3月と2022年3月に表彰された260校で実践されていた読書活動を整理した結果、従来行わ

れてきた取り組みの多くが継続されている一方で、読書の幅を広げたり、読書に関する子ども同士の交流を生み出したりすることを目的とした新しい取り組みが生まれていることが分かった（表2）。また、いくつかの活動の中には、ICTを活用した新たなアプローチが試みられているものがあった（表3）。

まず、これまで同様の取り組みが見られる読書活動としては、(b) 必読図書、(c) 読書会、(d) 一斉読書活動、(e) 読書感想文・読書ノート、(f) 感想画・読書ゆうびん、(g) 読書新聞・本の帯・手づくり絵本作成、(j) ブックトーク、(k) ストーリーテリング、(m) 読書に関する催し、(n) 読書興味を引き出す方法の活用、(o) 読書のアニメーション、の各項目がある。また、新しい取り組みとしては、「ビブリオバトル（書評合戦）」「ペア読書」「リテラチャーサークル」など、子どもが本について語る、あるいは、複数で語り合うような活動の他、「並行読書」「本の福袋」「読書ビンゴ」など、読書の幅を広げるような取り組みがある。

一方、「1人1台端末」や電子黒板など、ICTを活用した読書活動としては、(a) 図書の紹介、(h) 多読者の表彰、(i) 読み聞かせ、の各項目がある。例えば、図書の紹介を口頭で行う場合、動画を作成して教室や家庭から見られるようにしたり、図書館便りを学校ホームページに掲載したり、Googleクラスルームを使って配信したり、blog等のSNSで発信したりする事例があった。また、個人の読書記録をつける際に、インターネット上のサービスを利用したり、端末にインストールされたアプリやポートフォリオを活用したりする学校もあった。読み聞かせを動画で配信している例もあった。ただし、260校から2008件の取り組みをデータとして採取したが、ICTを活用していると読み取れたものは20件に過ぎず、取り組み全体の中では少数にとどまっている。

（表2）文部科学省「子供の読書活動優秀実践校」に見られる取り組み

野口（2006）による分類項目	優秀実践校の取り組み
(a) 図書の紹介（口頭、ブックリスト、図書館だより、学級新聞、掲示、展示）	口頭（校内放送、 <u>動画</u> ） ビブリオバトル ブックリスト <u>図書館だより（印刷、HP、blog、Googleクラスルーム）</u> 学級新聞 掲示（ポスター、ポップ、カード、 <u>掲示板</u> 、 <u>電子黒板</u> ） 展示（テーマ展示、おすすめの本展示）
(b) 必読図書（課題図書、推薦図書含む）	必読図書リスト作成 推薦図書リスト作成
(c) 読書会	読書会
(d) 一斉読書活動	朝の読書 集団読書（全校、ホームルーム）
(e) 読書感想文、読書ノート	読書感想文 読書ノート、読書ファイル
(f) 一口感想、感想画、読書ゆうびん	読書感想画 読書ゆうびん

野口（2006）による分類項目	優秀実践校の取り組み
(g) 読書新聞，本の帯，手づくり絵本作成	読書新聞 しおり作成 本の帯作成
(h) 多読者の表彰（星取表，グラフの活用）	多読者の表彰 読書目標冊数の設定 読書記録（読書メーター），読書貯金，読書通帳， 読書の本，読書マラソン シール，スタンプ 貸出ランキング（個人，クラス）
(i) 読み聞かせ	読み聞かせ（教員，学校図書館員，ボランティアなど） 英語絵本読み聞かせ 異学年読み聞かせ 校内放送で読み聞かせ <u>オンラインで読み聞かせ（リアルタイム，録画）</u> プロジェクターに投影した読み聞かせ 「マルチメディアDAISY」読み聞かせ 幼稚園・保育園や福祉施設等での読み聞かせ
(j) ブックトーク	ブックトーク
(k) ストーリーテリング	ストーリーテリング
(l) 親子読書（家庭との連携）	週末読書，家読 親子読書 ノーマディアディ（チャレンジ）
(m) 読書に関する催し（読書まつりなど）	くじ ランキング，投票（人気の本） 景品（しおり，プラスアルファの貸出） かるた，百人一首 古本市 講演会（作家，イラストレーター，大学講師など） 講座 ぬいぐるみおとまり会 おはなし給食 音楽会
(n) 読書興味を引き出す方法の活用（ペープサート，紙芝居，クイズなど）	ペープサート パネルシアター，劇，人形劇 紙芝居 朗読 読書クイズ，図書館クイズ，パズル，辞書ひき大会 映画会，ビデオ上映
(o) 読書のアニメーション	読書のアニメーション
その他	スキマ読書 ペア読書，リテラチャーサークル 並行読書 読書ビンゴ，スタンプラリー，ブックウォーク

野口（2006）による分類項目	優秀実践校の取り組み
その他	本の福袋 本のプレゼント（サードブック） 書店選書会 公立図書館見学，職場体験 出張図書館（学級文庫，青空文庫，出前図書館）

※下線はICTを活用していると読み取れる取り組み

（表3）文部科学省「子供の読書活動優秀実践校」の読書活動におけるICT活用例

読書活動	表彰年	学校種	報告書の記述
読み聞かせ	2022	小学校	テレビ放送を利用した本の紹介や読み聞かせの実施
	2022	小学校	絵本の世界を豊かに体験できるよう，生演奏やICT活用による映像を流すこともある
	2022	小学校	読み聞かせはリモートも開始し，タブレットで学習も行っていく
	2021	中学校	プロジェクターや音響を駆使し，視覚や聴覚でも楽しんで参加できるよう努めている
	2021	高等学校	オンラインでの読み聞かせ
	2021	特別支援	本校の職員による読み聞かせは，録画をして，いつでもどこでも見聞きができるよう
	2022	特別支援	読み聞かせをDVDにして送付
読書の記録	2022	小学校	各自タブレット内の「読書記録」に本のタイトル・ページ数を記録する
	2022	高校	ICTの活用，ポートフォリオ機能を利用して，長期休暇前を中心に，「読書記録」のひな型を課題配信している
図書の紹介	2021	小学校	図書館だよりを発行し，児童への配布及び学校ホームページへの掲載を行った
	2022	小学校	新刊図書が入ると校内放送やビデオメッセージで紹介
	2022	中学校	本をおススメする動画も作成しお昼の放送で流している
	2022	中学校	図書館だよりやホームページの活用
	2022	中学校	タブレット（1人1台端末）導入により，絵を描いたり文字を書いたりして掲示することに抵抗があった生徒も自分の思うとおりに掲示物が仕上がり，満足しているようであった
	2021	高校	Google Classroomを活用した情報発信
	2022	高校	ICTの掲示板や図書館広報紙に生徒が記録した内容紹介文を掲載するなど
	2022	高校	ホームページ等を利用した広報活動

読書活動	表彰年	学校種	報告書の記述
図書の紹介	2022	高校	発行した図書館だよりは、学校ホームページにアップロードする
	2022	高校	Google Classroomを利用した「図書館ファンクラブ」を立ち上げ、希望者に本に関する情報発信を行う
図書の紹介	2022	特別支援	図書だより及び学校ホームページで、新着図書の紹介や図書コーナー、特設スペースの紹介を適宜発信し、情報発信を行っている

3. 子どもの読書活動におけるICT活用の可能性

GIGAスクール構想のもとで学校の情報環境が大きく変化しつつあることを踏まえ、「読書活動優秀実践校」でICTがどのように活用されているか、各校の報告書を確認した。その結果、少数の事例ではあったが、「図書の紹介」「読書の記録」「読み聞かせ」に分類される取り組みで、ICT活用の萌芽を確認することができた。今後、同様の取り組みが広がっていくことが予想されるが、その過程で、どのような場面でICTの機能がよりよく生かされるのか、読書活動の目的と照らし合わせながら検討する必要がある。

文部科学省は学習指導要領の改訂に合わせて作成した『教育の情報化に関する手引－追補版－（令和2年6月）』のなかで、教科の特質やICTを活用する利点を挙げ、ICTを活用する場面と活用しない場면을効果的に組み合わせることが重要であると述べた上で、ICTを効果的に活用した学習場면을例示している（第4章「教科等の指導におけるICT活用」）²²⁾。

具体的には、まず、学習場面を「一斉指導による学び（一斉学習）」「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」「子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」の3つに分類している。そして、それぞれの学習場面に応じて、ICTが効果を発揮する使い方を示している。例えば、一斉学習においては、「学習者用コンピュータや大型提示装置を用いて、動画・アニメーション・音声等を含む指導者用デジタル教科書・教材を提示する」などの使い方によって、学習課題を効果的に提示・説明したり、子供の興味・関心を喚起したり、課題への理解を深めたりすることができるとしている。また、個別学習においては、「個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書（中略）を用いる」「活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行う」という使い方によって、各自のペースで学習をすすめたり、技能の習得や向上、自己評価が行えたりするとしている。その他にも「写真、音声、動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作する」「個別に制作した作品等を自在に保存・共有する」という使い方によって、表現技法の向上につなげたり、制作過程を振り返ったり、作品を通じた活発な意見交流を行うことができるとしている。さらに、協働学習においては、発表や話し合い、協働での意見整理、協働制作、学校の壁を越えた学習で、学習者用コンピュータやクラウドサービス、インターネット、テレビ会議システムを効果的に使うことができるとしている。

すなわち、ICTが特に効果を発揮するのは、個々の関心や特性に応じたカスタマイズ、資料の提示、焦点化、情報共有、意見交換、交流、履歴の記録、振り返り、作品制作、情報発信の場面であると言える。これを読書活動にあてはめてみると、優秀実践校を対象とした本稿の調査では、「図書の紹介」「読書の記録」「読み聞かせ」において、資料の提示、履歴の記録、情報発信でICTが活用されている。また『学校図書館』誌に掲載されたオンラインビブリオバトルや電子書籍の制作といった事例においては、交流、作品制作でICTの機能が生かされている。

読書活動とは、子どもを主体的な読書に向かわせることを目指したさまざまな取り組み、あるいは読書教育の方法であると言えるが、従来の方法にやみくもにデジタルツールを取り入れるのではなく、読書活動の内容や目的ごとに、ICTの活用が効果的な場面を選んで利用する必要がある。読書活動の取り組み方や方法にはいくつかの種類があり、それぞれの目的にかなうICT活用が考えられるだろう。例えば、前章で取り上げた野口は、2章1節で示した（a）から（o）の項目を以下の4つにカテゴリーにまとめている。

- ①読んでほしい、あるいは面白い、すすめたいと思う図書を紹介する取り組み
- ②集団で読書をする取り組み
- ③読後の感想や考えなどを綴り、伝える取り組み
- ④読書に関連した催しや読書を楽しむための取り組み²³⁾

また、読書教育の方法について整理した山元は、これまで学校や図書館で実践されてきた取り組みを以下の5つのカテゴリーにまとめている。

- ①読者と図書との出会いを促すための方法（ブックトーク、読書へのアニメーション）
- ②書物の世界への抵抗感をなくするための方法（読み聞かせ、ストーリーテリングなど）
- ③読書体験にひたらせる方法（黙読の時間（朝の10分読書））
- ④図書を読んで得たものを交流させるための方法（読み合い、読書会、ブッククラブなど）
- ⑤読書体験を記録する価値を教える方法（読書ノート、読書カード、読書記録）²⁴⁾

今後は、これらの読書活動の中に「カスタマイズ」「資料の提示」「焦点化」「情報共有」「意見交換」「交流」「履歴の記録」「振り返り」「作品制作」「情報発信」の場面を見出し、ICTの特性を活かしながら効果的に活用することで、子どもの読書意欲を喚起したり、読書への関心を高めたりすることが必要であると言える。

注・参考文献

- 1) 文部科学省総合教育政策局. 子供の読書活動推進に関する有識者会議設置要綱. 2022年6月7日.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/gaiyou/1388287_00001.htm (参照2022-10-20)
- 2) 文部科学省. 令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議(第1回)議事録. 2022年6月29日. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/mext_01171.html (参照2022-10-20) (参照2022-10-20)
- 3) 株式会社リベルタス・コンサルティング. 文部科学省委託調査 令和2年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究. 2021年3月3日. https://www.mext.go.jp/content/20210610-mxt_chisui02-000008064_0201.pdf (参照2022-10-20)
- 4) 一般社団法人電子出版制作・流通協議会. 公共図書館電子図書館サービス(電子書籍サービス)導入館(2022/07/01版). 2022年7月1日. https://aebs.or.jp/pdf/Electronic_Library_Service_Implementation_Library_20220701.pdf (参照2022-10-20)
- 5) 日本図書館協会の機関誌『図書館雑誌』では, 2020年12月号(第114号)で「特集 電子メディアと学校図書館: コロナ禍は, 学校図書館の「電子書籍元年」をもたらすか」を組み, 2本の論考と2本の実践事例を掲載している。
- 6) 全国学校図書館協議会の機関誌『学校図書館』では, 2022年8月号(第862号)で「特集 電子図書館の導入を考える」(p.16-46)を組み, サービス提供各社による電子図書館紹介と, 導入校4校の事例を掲載している。
- 7) 文部科学省総合教育政策局, 文部科学省初等中等教育局. 1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について. 2022年8月2日. https://www.mext.go.jp/content/20220803-mxt_jogai01-000003278_1.pdf (参照2022-10-20)
- 8) 文部科学省. 電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活動推進に関する実態調査. 2021年3月. https://www.mext.go.jp/content/20210610-mxt_chisui02-000008064_0202.pdf (参照2022-10-20)
- 9) 文部科学省. 小学校学習指導要領(平成28年告示)解説国語編. https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoku02-100002607_002.pdf (参照2022-10-20)
- 10) 文部科学省. 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編. https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf (参照2022-10-20)
- 11) 文部科学省. 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」. 2022年4月20日.
https://www.kodomodokusyo.go.jp/happyu/hourei_download_data.asp?id=28 (参照2022-12-15)
- 12) 文部科学省. 令和4年度予算のポイント. 2022年3月22日. https://www.mext.go.jp/content/20211223-mxt_kouhou02-000017672_1.pdf (参照2022-10-20)
- 13) 文部科学省. 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」. 2022年4月1日. https://www.mext.go.jp/content/20220404-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf#page6 (参照2022-10-20)
- 14) 庭井史絵. 新型コロナウイルス感染症に対応する学校での学校図書館活動: 休校期間中並びに再開後の取り組みと課題. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集, 2021, p.43-46.
- 15) 宗愛子. 1人1台端末を学校図書館の入り口にするには? (特集: 学校図書館のDXを考える-1人1台端末を生かせる図書館へ). 学校図書館. 2022.06, no.860, p.41-44.
- 16) 関口真弓. 学校図書館×ICT活用-1人1台端末を生かす- (特集: 学校図書館のDXを考える-1人1台端末を生かせる図書館へ). 学校図書館. 2022.06, no.860, p.46-48.
- 17) 文部科学省. 令和4年度「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰」について. 2022

年3月. https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00962.html (参照2022-10-20)

- ¹⁸⁾ 文部科学省. GIGA スクール構想の実現に向けたICT 環境整備(端末)の進捗状況(令和3年3月末時点)について(確定値). 2021年5月. https://www.mext.go.jp/content/20210518-mxt_jogai01-000009827_001.pdf (参照2022-10-20)
- ¹⁹⁾ 文部科学省. 令和3年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰被表彰者一覧. 2021年3月. https://www.mext.go.jp/content/20200331-mxt_chisui01-000006242_1.pdf (参照2022-10-20)
- ²⁰⁾ 文部科学省. 令和4年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰被表彰者一覧. 2022年3月. https://www.mext.go.jp/content/20220325-mxt_chisui02-000021371.pdf (参照2022-10-20)
- ²¹⁾ 野口久美子. 小学校・中学校における読書指導の実践に関する報告記事の分析: 全国学校図書館研究大会を事例として. *Library and information science*. 2009, no.62, p.111-143.
- ²²⁾ 文部科学省. 教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)第4章教科等の指導におけるICTの活用. 2020年6月. https://www.mext.go.jp/content/20200701-mxt_jogai01-000003284_005pdf.pdf (参照2022-10-20)
- ²³⁾ 前掲21)
- ²⁴⁾ 山元隆春編. 読書教育を学ぶ人のために. 世界思想社, 2015.